

“豊かさ”をみんなで育む市民力都市をめざして



平成21年度施政方針から

市政運営の所信

三豊市も合併して3年が経過しました。「地域内分権を進め、市民でできることは市民で、民間団体や企業で出来ることは民間でやっていただき、経費を削減しながら活気のある三豊市にする」という考え方でこれまで取り組んできました。このことは、市民の皆さんのご理解をいただき、多くの分野で市民や自治会、市民団体などでの主体的な取り組みが行われ、新しいまちづくりへのエネルギーが動き出しています。このエネルギーこそが三豊そのものであり、ふるさと三豊の創造を約束するものと確信しています。

これまでの3年間は、行財政改革に取り組んできました。その結果、着実な成果を収めることができ、新しいまちづくりへの基盤は整いました。

昨年度、平成21年度を初年度とする10年間の新たなまちづくりの考え方と施策の大綱を取りまとめた「三豊市新総合計画」を策定しました。

まちづくりの基本理念は、効率的な行政運営に努め、三豊市自らの責任と判断で市を運営していく「自主・自立」、将来像を「豊かさ」をみんなで育む市民力都市・三豊」とし、この将来像を

現するための基本目標を6つの柱にまとめました。さらにこの計画を「最善」「最良」のものとするために、「事業評価システム」と「毎年度のローリング（見直し）システム」についても提案し取り組むこととしています。

6つの基本目標の取り組みについて紹介します。

活気にあふれ、産業が躍動するまち

農業・水産業振興は、商業・工業との連携の強化を図るとともに、ブランド化や循環型有機農業の普及に向けた調査研究事業にも取り組めます。農業に活力を与え、元気を回復させるため、三豊市農業振興対策基金を創設し、担い手の育成や生産振興活動を展開します。さらに、農業委員会を中心とした耕作放棄地解消事業、笠田高校との連携による商品開発や有機肥料の効能試験事業にも取り組めます。



笠田高校と市が共同で実施した『生ごみリサイクル元気野菜作り』

商業・工業振興は、この3年間、企業誘致に積極的に取り組み「ゆめタウン三豊」、「トヨタユーゼック」、「スルガ」の進出を実現することができました。また、原下工業団地も、地元の「クシバウインテック」に土地を購入いただくなど成果を収めることができました。現在、経済環境が極めて厳しい状況ではありますが、引き続き三豊市への誘致促進に取り組んでいきます。また、三豊市を本拠地とする中小企業振興は、何よりも重要な課題であり、市と事業者のお互いの責務を明らかにしながら中小企業振興対策事業を開始します。

竹林対策事業は、農業振興面の観点のみならず本年度から竹を資源とする事業化を図り、企業誘致に結び付けて行くための事業を開始します。



竹を資源として有効利用

この竹資源のみならず、太陽光、家庭ごみや家畜し尿、農作物残さなど三豊市に存在するさまざまな物質を資源とし、その資源を産業やエネルギーに結びつけ

て行く、「バイオマスタウン構想」として市全体で取り組んでいきます。また、地域の活性化と商業振興を図るため、市内の商店等で使用できる商品券事業を開始します。



4月26日からプレミアム付商品券を発売します。(関連記事P26に掲載)

仁尾マリーナ係留施設は、22年度までに整備するよう取り組みます。また、昨年度策定した仁尾地域振興プランの実現に向けた取り組みを開始します。

観光振興事業は、本年4月1日に三豊市観光協会を発足し、各種団体と連携を図り、効果的なPR活動等を実施します。

豊かな自然と共生し、環境にやさしいまち

ごみ処理は、昨年10月から市内統一基準での新しい分別収集を実施し、市民の皆さんの協力で、ごみの減量化や分別の徹底が着実に定着しつつあります。なお、「ごみはすべて資源である」「ごみを処

分するのではなく活かす」というバイオマスタウン構想と方向を同じくする考えのもと、「三豊市ごみ処理技術検討委員会」で、三豊市にふさわしいごみ処理方式について検討していきます。



三豊市ごみ処理技術検討委員会

水道事業は、耐震対策事業として、引き続き緊急遮断弁設置工事の実施や新たな水源開発調査に取り組みます。

生活排水対策は、合併処理浄化槽の設置普及と、本年度は、新たな補助事業として「水と緑の美しいまちづくり事業」を創設し浄化槽の設置普及に努めます。

火葬場の整備は、施設の老朽化に伴い新火葬場の整備について引き続き検討を行います。

情報伝達システムは、全市統一した防災行政無線方式により、昨年度から着手し、平成23年度までに完成する予定です。

コミュニティバス運行事業は、開業から2年目を迎え、本年度は、利用率を高めるため一部路線の見直しを行います。

人々が助け合う、安全・安心なまち

消防・防災対策は、消防団の育成強化、広域消防の充実と連携強化、消防施設の点検と施設整備計画の作成などに取り組みます。また、自主防災組織の育成強化や防災知識の普及、防災訓練の実施などに取り組みます。



自主防災組織の防災訓練

交通安全対策は、安全意識とマナーの向上に努めるとともに施設の整備や街頭指導などを実施します。

防犯対策は、適切な場所への防犯灯の設置やグリーンパトロール隊との連携などで、犯罪被害のないまちづくりに努めます。

人々が支えあい、健康でいきいきと暮らせるまち

子育て支援対策は、「子育て支援がまちの未来につながる」との視点を市民の皆さんと共有しながら、「三豊市次世代育成支援行動計画」の見直し・策定に取り組みます。



まちの未来のために

健康づくりは、がん検診や4つの医療機関による人間ドック、国保被保険者を対象にした特定健診・特定保健指導等を実施し、受診率を高め疾病の早期発見体制の強化を図ります。

介護保険事業は、第4期介護保険事業計画(平成21~23年度)に基づき、介護サービスの適正な給付に努め、介護予防事業、権利擁護事業などに取り組みます。認知症予防事業は、市内7地域において認知症予防教室を開催します。

障害者福祉は、障害者自立支援法の見直しに対応するとともに、啓発、相談事業の充実に努め、各種福祉サービスの向上を図ります。

重度心身障害者医療費支給事業は、8月から現物給付に移行します。

地域福祉は、社会福祉協議会、ボランティア団体や民生児童委員などと協力して子どもの安全確保や災害時の高齢者・障害者の避難支援事業に取り組みしていきます。



健康でいきいきと健康体操

**豊かな心を育み、
文化を発信するまち**

学校教育は、本年度も引き続き、学校施設の耐震化事業に取り組みます。老朽化の著しかった詫間中学校屋内運動場は、本年度末の竣工を目指して改築工事を実施します。

幼児教育は、昨年度、「三豊市就学前

教育・保育検討委員会」での答申を最大限尊重し、さらに充実した就学前教育が受けられるようにします。幼稚園の預かり保育は、引き続き市内20園すべてにおいて実施します。



幼稚園の預かり保育

学校給食は、安全・安心な給食を提供し、食育教育ならびに地産地消を推進するため、学校給食のあり方を検討する委員会を設置します。

生涯学習は、本年度から市民と行政が協働した総合的な生涯学習推進計画の策定に取り組みます。

公民館活動は、三豊市の優れた学習素材を活用し、地域の特色を生かした活動に取り組みます。

文化財保護は、本年5月に「宗吉瓦窯跡史跡公園」がオープンします。公園内の「宗吉かわらの里展示館」は、瓦窯跡にまつわる歴史背景や古代の歴史文化を紹介するとともに、地域住民を中心とし

たボランティアによるガイドの開始など、特色のある展示や催しを行います。



宗吉瓦窯跡史跡公園

**ともに考え行動する、
自らがつくるまち**

人権尊重社会の確立は、学校や家庭、地域、企業などが連携し、効果的な人権教育を実施するとともに、講演会の開催などによる啓発活動を実施します。



ボランティア清掃

男女共同参画の促進は、引き続き共同参画社会の確立にむけて効果的な事業に取り組みしていきます。

地域内分権の推進は、それぞれが担う役割や効果的な分権方法について検討し、受け皿となるコミュニティ組織やリーダーの育成に取り組みます。

新しい三豊市づくり

私たちは、何かの縁があつて今この三豊市に暮らしています。この縁は、次第に絆へと進化し、その絆がまちを創ります。絆によって支えられた市民力は、市民みんなでまちを創るという地域内分権に生かされ、地域内分権の取り組みは、まちの品格を育てるものと信じます。今ある自然資源を大切に、最大限に活かす工夫、つまり、バイオマスダウン構想の考え方は、まちのやさしさを拡大させ、誇りを強めてくれると確信しています。

私たちは、新しい三豊市づくりというテーマのもと、前を向き、現実を見据え、市民みんなで支えあい、力を合わせて三豊市新時代を切りひらいていきたいと考えています。

市民の皆さんのご理解とご支援をお願いします。

平成21年度施政方針全文は、市ホームページまたは政策課、各支所市民サービス課でご覧いただけます。